

2024年度 第133回

静岡英和女学院高等学校 卒業式

惜別の祈り

いよいよ制服に腕を通す最後の日になってしまいました。快晴に恵まれ、お互いの白いカラーがより眩しく輝くのは陽の光のせいだけではないかもしれません。

緑の皆さん、先に英和を去るのですか。皆さんと一緒に英和の門をくぐった私はとてもとても、とっても寂しく、辛いです。卒業おめでとう。

ご臨席を賜りましたご家族の皆様、高いところから恐縮ですが、私どもの至らなかった点をおゆるしいただき、本日は皆様とご一緒にお嬢様のご卒業を迎えられたことにただ、ただ共に喜び、感謝を申し上げます。本当にご家族皆様のご理解とお支えに教職員一同、心より感謝しております。ありがとうございました。

また本日は石井博文理事長先生、同窓会会長森田拓子様始め多数のご来賓の皆様をお迎えしています。後ほどご紹介申し上げます。ただお一人だけご紹介させて下さい。東京から、同じ英和のお姉さん、東洋英和女学院中学部高等部部長、敬愛する、盟友の石澤友康先生をご紹介します。また本日は妹の山梨英和女学院高等学校も卒業式を迎えています。森島泰則校長先生始め教職員、卒業生たちの上に神様の祝福をお祈りします。

さて、皆さんのほとんどは十八歳、成年齢となりました。すでに公職選挙での投票をされた方もいるでしょう。そして参政権と共にこれからはアルバイトでも納税の義務があります。

それともう一つ、皆さんの新しい所属先は四月一日になります。今月三十一日まで静岡英和女学院に在籍しています。事と次第によっては生徒指導の対象にもなりますから、ご注意下さい。

皆さんの三年間、六年間の英和生活は、校長室真上の中学一年生教室から始まりました。皆さんの歓声というか悲鳴というか、毎年のことと慣れましたが、一年目の私には尋常ではありませんでした。元気なのは微笑ましいですが、真上から来ると、男子校から来た校長でも相当なカルチャーショックでした。

でも一年目の終わりには学校が静まり返りました。新型コロナウイルス感染症は皆さんの海外研修を奪いました。中学三年生の研修旅行は台湾から伊豆半島に、高校二年生はカナダから長崎となりました。特に、長崎ではその旅先での服装で校長の私に直訴があり、それも校長室前の廊下に本人たちはソファーに座り、私は約二時間も立たされて訴えられました。この経験を上回る直訴は今のところありません。皆さんは海外研修のなかった初めての学年となりました。

皆さんとの思い出は尽きないのですが、もう一つだけ、本当に皆さんは体育祭、運動会に強かった。中学三年、高校一年、高

校三年と三度も優勝した学年はめずらしい、初めてかもしれません。足が速いのもあったかもしれませんが、緑の皆さんの団結力だと思います。それは今年一年間、皆さんと共に授業で学んでいても、英和祭での活躍を見ていても感じました。

さて、皆さんは人生の一つの区切りを迎えます。でもこの区切りは私たちが考えたことです。神様はお一人お一人に御計画をお持ちで、道を用意されています。それはお母さん、お父さんにはわかりません。そして皆さん自身にもわかりません。

その皆さんに与えられた御言葉は、
「あなたがたは地の塩である」
「あなたがたは世の光である」
です。

海の塩に対して、岩塩などと言いますが、地の塩があります。聖書では「塩」は神と人のつながり、関わりをあらわします。つまり神との親密さです。英和では毎朝、お

昼、帰りに日に三度、共に祈りの時をもってきました。もうすっかり習慣で、無意識のうちに口が動き、繰り返していただいだけかもしれませんが、親密さというのは空気のような、当たり前のものです。

でも皆さんは感染症で学校生活がフリーズしてその当たり前がなくなった時、それがどれほど大切で必要なものなのかを痛烈に、生涯忘れることのないこととして共に体験しました。神との親密さとは「祈り」です。どうかこれからもそうした時をもって下さい。ちょっと重いし、場所を取るかもしれませんが、讚美歌と聖書をそばに置いて下さい。祈れるのは英和で培われた神の恵み、皆さんの賜物なのです。

もう一つ「世の光」です。残念ながら、この「世」というのは神が初めに造られた時とは違います。人間には罪があり、この世は闇の世界です。混沌とした状態と言ってもいいでしょう。ただ神の御子イエスが世の光として来られたことは、皆さんもクリスマスでよく知っています。イエス自身

も自らを「私は世の光である」と言っています。つまり、「光」というのは神の御計画、目的、ビジョンです。このビジョンに皆さんお一人お一人の道は照らされているということなのです。

皆さんの道は用意されています。どうか英和で与えられた賜物と神のビジョンに導かれ、歩まれるようにお祈りしています。

以上、私の敬愛する、宝である緑の皆さんへの惜別の、英和での私の最後の励ましとします。

2025年3月1日

校長 大橋 邦一